

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

科目名		ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人体構造機能学 I			必修	2	1	前期
担当教員		研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
志茂聡 成昌燮		教員控室	sshimo	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要 人体構造機能学 I は、人体構造機能学を学ぶ意義を理解し、人体の基本構造である細胞・組織・器官系、ホメオスタシス（恒常性）とフィードバック機構について学び、生命を維持する植物機能（消化器系、代謝、呼吸器系、血液、循環器系、泌尿器系、体液）の構造と機能について学修する。上記について遠隔授業や課題学習等を通して理解し、その後の授業においてフィードバックや意見交換を行い包括的な理解につなげる。						
授業形式・方法 <input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・イベント <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> その他 ()						
学習上の助言 本科目は、医療従事者にとって基礎となる科目であるため予習・復習が重要である。また、授業内容に関する質問は、授業中および授業前後に受け付けているので積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めて欲しい。						
教科書 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 第10版/著:坂井建雄、岡田隆夫/医学書院/2018 「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック/編:坂井建雄、岡田隆夫/医学書院/2022						
参考書 人体の構造と機能 第5版/編:内田さえ、佐伯由香、原田玲子/医歯薬出版/2019 なるほどなっとく!解剖生理学 改訂2版/著:多久和典子、多久和陽/南山堂/2019 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック 第2版第5刷/編:日本生理学会教育委員会/医学書院/2019						
外部教材 Learn the foundations of human anatomy (MichiganX's Anatomy) Glen M Fox et al, edX						
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	身体の細胞・組織・器官系、ホメオスタシスとフィードバック機構について説明できる。			HSU(1)(2)、NS(1)		
②	消化器系の構造を理解し、消化吸収について説明できる。			HSU(1)(2)、NS(1)		
③	呼吸器系の構造を理解し、呼吸とは何かを説明できる。			HSU(1)(2)、NS(1)		
④	循環器系の構造を理解し、その働きについて説明できる。			HSU(1)(2)、NS(1)		
⑤	泌尿器系の構造を理解し、体液量の調整（尿の生成）、浸透圧調整について説明できる。			HSU(1)(2)、NS(1)		
授業計画						
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間（時間）			
1	オリエンテーション、人体構造の基礎知識③:機能からみた人体について学ぶ。 [担当:志茂聡]	同時双方向型授業	教科書 p2~6、55~62、ワーク p14~15 で予習・復習を行う。	1		
2	人体構造の基礎知識①:形からみた人体について学ぶ。 [担当:志茂聡]	同時双方向型授業	教科書 p8~27、ワーク p6~7 で予習・復習を行う。	1		
3	人体構造の基礎知識②:素材からみた人体について学ぶ。 [担当:志茂聡]	同時双方向型授業	教科書 p27~55、ワーク p8~13 で予習・復習を行う。	1		
4	人体構造の基礎知識のまとめ [担当:志茂聡]	同時双方向型授業	教科書 p2~62、ワーク p6~15 を確認する。	1		
5	栄養の消化と吸収①:口・咽頭・食道の構造と機能について学ぶ。 [担当:志茂聡]	同時双方向型授業	教科書 p64~76、ワーク p16~19 で予習・復習を行う。	1		
6	栄養の消化と吸収②:腹部消化管の構造と機能について学ぶ。 [担当:志茂聡]	同時双方向型授業	教科書 p76~95、ワーク p19~25 で予習・復習を行う。	1		
7	栄養の消化と吸収③:脾臓・肝臓・胆嚢の構造と機能について学ぶ。 [担当:志茂聡]	同時双方向型授業	教科書 p96~102、ワーク p26~27 で予習・復習を行う。	1		
8	栄養の消化と吸収④:腹膜の構造と機能について学ぶ。 [担当:志茂聡]	同時双方向型授業	教科書 p102~106、ワーク p28~29 で予習・復習を行う。	1		
9	栄養の消化と吸収のまとめ [担当:志茂聡]	同時双方向型授業	教科書 p64~106、ワーク p16~99 を確認する。	1		

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

10	消化器系の復習 [担当:志茂聡]	同時双方向型授業	教科書 p108~120、ワーク p30~33 で予習・復習を行う。	1	
11	呼吸と血液のはたらき①:呼吸器の構造について学ぶ。 [担当:志茂聡]	同時双方向型授業	教科書 p120~141、ワーク p34~38 で予習・復習を行う。	1	
12	呼吸と血液のはたらき②:呼吸について学ぶ。 [担当:志茂聡]	同時双方向型授業	教科書 p141~165、ワーク p38~41 で予習・復習を行う。	1	
13	呼吸と血液のはたらき③:血液について学ぶ。 [担当:志茂聡]	同時双方向型授業	教科書 p108~165、ワーク p30~41 を確認する。	1	
14	呼吸と血液のはたらきのまとめ [担当:志茂聡]	同時双方向型授業	教科書 p120~165、ワーク p42 で予習・復習を行う。	1	
15	血液の循環とその調節①:循環器系の構成について学ぶ。 [担当:成昌燮]	同時双方向型授業	教科書 p168~170、ワーク p43~45 で予習・復習を行う。	1	
16	血液の循環とその調節②:心臓の構造について学ぶ。 [担当:成昌燮]	同時双方向型授業	教科書 p170~175、ワーク p45~47 で予習・復習を行う。	1	
17	血液の循環とその調節③:心臓の拍出機能について学ぶ。 [担当:成昌燮]	同時双方向型授業	教科書 p175~193、ワーク p48~55 で予習・復習を行う。	1	
18	血液の循環とその調節④:末梢循環系の構造について学ぶ。 [担当:成昌燮]	同時双方向型授業	教科書 p193~206、ワーク p55~5 で予習・復習を行う。	1	
19	血液の循環とその調節⑤:血液の循環の調節について学ぶ。 [担当:成昌燮]	同時双方向型授業	教科書 p206~222、ワーク p57 で予習・復習を行う。	1	
20	循環器系の病態生理について学ぶ。 [担当:成昌燮]	同時双方向型授業	教科書 p223~226、ワーク p42~57 を確認する。	1	
21	血液の循環とその調節⑥:リンパとリンパ管について学ぶ。 [担当:成昌燮]	同時双方向型授業	教科書 p226~229、ワーク p58~61 で予習・復習を行う。	1	
22	血液の循環とその調節のまとめ [担当:成昌燮]	同時双方向型授業	教科書 p168~229、ワーク p62 で予習・復習を行う。	1	
23	体液の調節と尿の生成①:腎臓・糸球体・尿管について学ぶ。 [担当:成昌燮]	同時双方向型授業	教科書 p231~244、ワーク p63 で予習・復習を行う。	1	
24	体液の調節と尿の生成②:傍糸球体装置などについて学ぶ。 [担当:成昌燮]	同時双方向型授業	教科書 p244~248、ワーク p58~63 を確認する。	1	
25	体液の調節と尿の生成③:排尿路について学ぶ。 [担当:成昌燮]	同時双方向型授業	教科書 p248~251、ワーク、配布資料を復習する。	1	
26	体液の調節と尿の生成④:尿の成分と性状、尿・排尿異常について学ぶ。 [担当:成昌燮]	同時双方向型授業	教科書 p252~253、ワーク、配布資料を復習する。	1	
27	体液の調節と尿の生成⑤:体液の調節について学ぶ。 [担当:成昌燮]	同時双方向型授業	教科書 p253~260、ワーク、配布資料を復習する。	1	
28	体液の調節と尿の生成のまとめ [担当:成昌燮]	同時双方向型授業	教科書 p231~260、ワーク、配布資料を復習する。	1	
29	泌尿器系の復習 [担当:成昌燮]	同時双方向型授業	教科書、ワーク、配布資料を復習する。	1	

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

30	まとめ [担当：成昌燮]	同時双方向型授業	教科書、ワーク、配布資料を復習する。	1			
試	筆記試験						
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		70	0	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	10	60
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点			フィードバックの方法		
試験	①	✓	学期末に筆記試験を実施して評価する(全体評価の70%)。試験では、各単元の基礎知識を問う問題とし、教科書・ワークブック・授業毎に配布する課題から出題する。	テスト結果の開示を行う。			
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	各回の授業で提示する課題の提出にて評価する(全体評価の30%)。	添削・評価の後、返却する。			
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備 考							
他 担 当 教 員							
教員の実務経験	担当教員は解剖学で博士号(医学)を取得している。						
実践的授業の内容	人体の構造(解剖)と機能(生理)に関して、看護実践に重要なことに焦点をあて、疾病の発症機序および治療、日常生活との関係等を学ぶための基礎知識として、人体の構造と機能を理解する。この授業では、実際に人体解剖に携わってきた教員により、経験に基づく様々な視点から人体の構造についての具体的な解説がなされるため、やがて臨床家となる受講者にとっては実際に即した知識を獲得でき、受講者の疑問への対応を通して、より実践的な教育を受けることができる。						

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

そ の 他	Teamsを使った同時双方向型授業を行う。 同時双方向型授業時は通信容量が無制限のインターネット環境を推奨する。 課題や資料のダウンロードや動画視聴などがありますので、通信容量制限のある場合は通信量に十分に注意すること。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性があります。
-------	---